

RESAS(地域経済分析システム)活用研修会を実施しました！

7月10日(水)、中国経済産業局から2名の講師の方を迎え、RESAS(地域経済分析システム)の活用研修会を行いました。参加したのは、5月から「三原市を全国に誇れるまちにする」という目標を立てて「みはら2020」プロジェクトを進めている生徒ら31名です。



RESASは、国や様々な機関が収集した情報を視覚的に検索し、瞬時にグラフ化して比べられるシステムです。生徒は、「3月の休日に三原市に向かう自動車がナビで最も検索された場所」や、「三原市の林業の推移」など思い思いのデータを自由に探し、眺めながら、三原市の現状を分析しました。今後は、思い付きではなく、要因分析にもとづいた政策の立案に生かすべく、取り組みを継続していきます。

リーサスを使いながら三原市のデータを集める生徒



三原高で「地域経済分析」授業

国サイトで街の活力考察

三原市宮沖の三原高で10日、人で自治体ごとの人口移動や訪問者口動態や観光動向を比較調査できる政府のサイト「地域経済分析システム(リーサス)」の使い方を、中国経済産業局の職員に教わりながら、学ぶ授業があった。生徒たちはリーサスを活用して三原のまちおこしのアイデアを考え、内閣府の政策コンテストへの応募を目指す。リーサスは、インターネット上

三原市内の企業の出荷額の推移や人気の観光地を調べた。取り組むテーマは「三原を全国に誇れるまちにする」。地域の活性化に向け、同高が今春から乗り出したプロジェクト学習の一つだ。リーサスのデータを生かしながら、人口減少や産業振興、中心市街地の活力づくりなどの課題解決に必要なアイデアを練る。10月をめどに発表資料にまとめ、内閣府の「地方創生☆政策アイデアコンテスト」に応募する。

近藤輝星さん(16)「西宮IIは三原の現状と課題をしっかりと分析し、住む人が増えていくような政策を考えたい」と話していた。

(政綱官規)